

1 学習に取り組んでいる主な分野

☐ 生物多様性	☐ 海洋	☐ 防災・減災	☐ 気候変動
☐ エネルギー	☐ 環境	☐ 文化多様性	☐ 世界遺産・文化財
☒ 国際理解	☐ 平和	☐ 人権	☐ ジェンダー平等
☒ 福祉	☒ 生産と消費	☐ その他（ ）	

2 ユネスコスクールとしての活動の概要

本校は、「自ら考え行動し、共に学び、豊かな心をもつ子どもの育成」を学校教育目標に、「自立・協働・感謝」をキーワードとして教育活動に取り組んでいる。その中で、E S Dを各教科等における横断的・総合的な学びを通した持続可能な社会をつくる学習ととらえ、実践に取り組んでいる。

児童にとって、社会の基盤となるのは地域である。地域へのかかわり方を考えていくことが、持続可能なライフスタイルを構築する一歩であると考え。そこで、地域との関わりの中で、生活科や総合的な学習を中心に、地域の施設や活動をもとにした福祉教育、商店などを活用した消費者教育、地域と協力する防災教育など「地域とつながる」をキーワードにE S Dに取り組んできた。しかしながら、今年度もコロナ禍において多くの制限があり、本来のねらいまで到達できないことも多かった。



3 特徴的な活動事例の紹介

○ つながり合う心

中学年での福祉教育として、主に3年生で高齢者福祉、4年生で障害者福祉に関して学習する単元を組んだ。

4年生の学習では、車椅子を使われている方や目の不自由な方、その介助をされている方と交流し、どのように関わっていくのかについて考えた。車椅子を操作したり介助したりして課題をつかみ、両方の立場から話を聞き、街中で車椅子での行動が難しい場所や介助するときに大切なことを体験することができた。訪問介護や車椅子の方の旅行を支援されている方とオンラインでつながり、多面的なものの見方や考え方についても学んだ。

視覚障がいについても同じように学習を進めた。校区にお住まいの方に介助の方と一緒に来ていただき、日常の生活について話を聞いた。まわりからの声かけはもちろん大切であるが、ご自分でもいろいろと工夫されていることを聞き、さらに見方・考え方を広げることができた。最後には、サウンドテーブルテニスの体験もさせてもらった。音を頼りにボールの位置を探るのはとても難しく、アイマスクをした子どもたちは、動いているボールにほとんど対応することができなかった。パラスポーツに対する関心も少し高まったようであった。

この2つの単元の学習を通して、誰もが住みよい、住み続けられるバリアフリーやユニバーサルデザインのまちづくりについて考え、新聞づくりなどを通して発信した。



○ 中国の友だちに贈り物を作ろう

本校は、中国大同市の第十八小学校と長年交流しており、全学年が新年を祝うプレゼントを作って送っている。十八小学校からも作品が送られてきたり、コロナ禍以前は学校に来られたりして交流が続いており、相手から送られてきた作品は校内に展示し、みんなで鑑賞できるようにしている。

3年生では、プレゼントづくりの前に、国際理解教育推進事業を活用し、講師の方から自分の国の正月の話を中心に文化や風習などを話していただき、学習する機会を設けている。子どもたちも、日本の正月の行事やおせち料理などについて調べ、講師の方に発表している。



3 今後の活動計画

地域とつながるプロジェクトとして、ここ数年開催できていない平原フェスタで、ショップ開催やまちづくりへの提言などを行っていく。各学年や企画委員会を中心に、全校でSDG11・12を柱とする地域に根ざした生産と消費、健康と福祉を重点とした学習に取り組んでいく。校区のクリーンアップや施設訪問などコロナ禍において途切れている地域との直接的な交流についても実施する方向で計画していきたい。

また、大同市との交流以外にも他国の文化や風習などについて調べる学習を通して、多様性を理解し、他を尊重する態度の育成を図っていく。